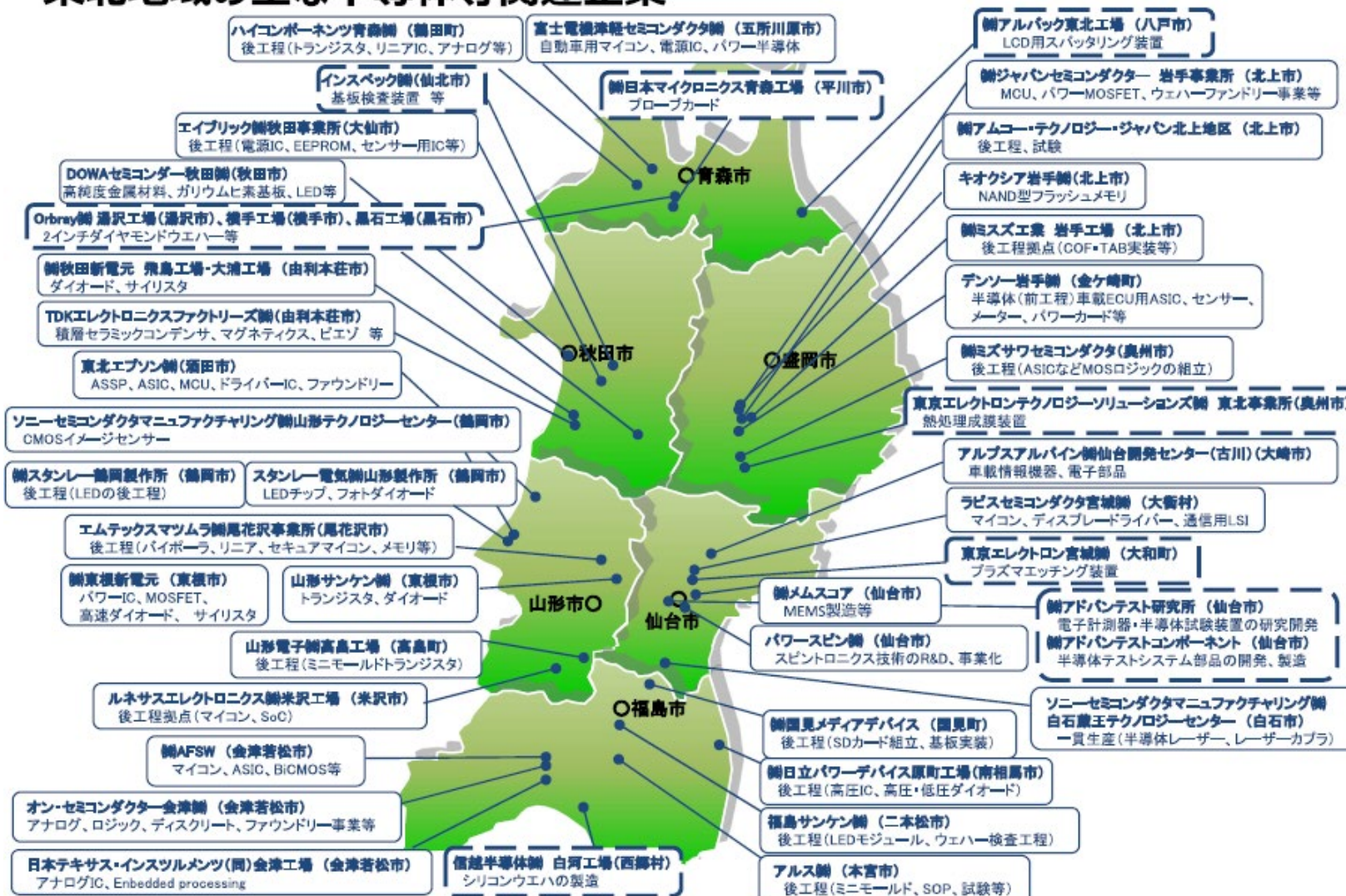


職業能力開発校における外国人材の受入及び適切な在留資格の取得

令和7年3月7日
宮 城 県

宮城県のほか、東北各県で半導体企業が既に立地しており、かつて「シリコンロード」と呼ばれた半導体関連のサプライチェーンが存在している。

※実線はデバイスメーカー、点線は装置・材料メーカー



Ⅱ. 半導体産業の拠点形成に向けた取組の現状・今後の方針

連携“絆”特区申請の端緒となった半導体製造工場の建設計画は中止となったが、**半導体産業の誘致**は本県のものづくり産業と持続的な**経済発展に不可欠**であり、以下のビジョンに基づき、我が国における**半導体生産の重要拠点**となることを目指していく

みやぎ半導体産業振興ビジョン（案）

ビジョン

本県の優位性向上
関連産業の集積

我が国における**半導体生産の重要拠点**
「**みやぎシリコンバレー**」の形成をめざす

大学等と連携した
育成プログラムの創設

半導体人材の
育成・確保

半導体分野への
参入促進・取引創出

金融機関等と連携した
取引機会の創出

関係団体等と連携した
半導体業界を知る機会の提供

戦略的誘致活動

大規模事業用地の確保

先進地域の
取組研究・横展開

富県戦略による関連企業の集積
半導体製造装置・自動車

東北大学
世界トップレベルの
半導体研究・人材育成拠点

ポテンシャル

本県が有する
生産拠点としての
優位性

優れた立地環境

土地・操業インフラ・交通アクセス・住環境

誘致のターゲット

国の支援対象となる
半導体メーカー

国策としての半導体生産拠点の確保 「半導体・デジタル産業戦略」

Ⅲ. 今後の取組方針（①半導体産業の拠点形成）

半導体産業振興ビジョン(今年度末までに策定)に基づき、**人材の育成・確保**をはじめとする**立地環境の優位性向上**と誘致活動の進捗等に応じた**段階的な基盤整備**に取り組む

フェーズ2

拠点の柱となる半導体工場の誘致

- ✓ 誘致工場の建設・操業支援(インフラ拡充含む)
- ✓ 行政・企業・大学が一体となった
半導体人材育成プログラムの実現
- ✓ 産業集積・取引拡大に向けた
官民連携協議体の設立

人材

フェーズ1

誘致活動と連動した本県の立地ポテンシャル向上

- ✓ ターゲットとなる半導体メーカーへの誘致活動
- ✓ 大学・関係機関と連携した「半導体を知る機会」の創出
- ✓ 先進地域のベンチマーク等を通じた「取引創出」の仕組みづくり
- ✓ 大規模事業用地(将来用地)の確保検討

半導体生産の重要拠点
みやぎシリコンバレー

フェーズ3

半導体エコシステムの構築

- ✓ エコシステム構築に向けた誘致活動
(設計-前工程-後工程+装置・素材)
- ✓ 水資源・環境保全、グリーン電力
- ✓ グローバル人材の受入環境整備

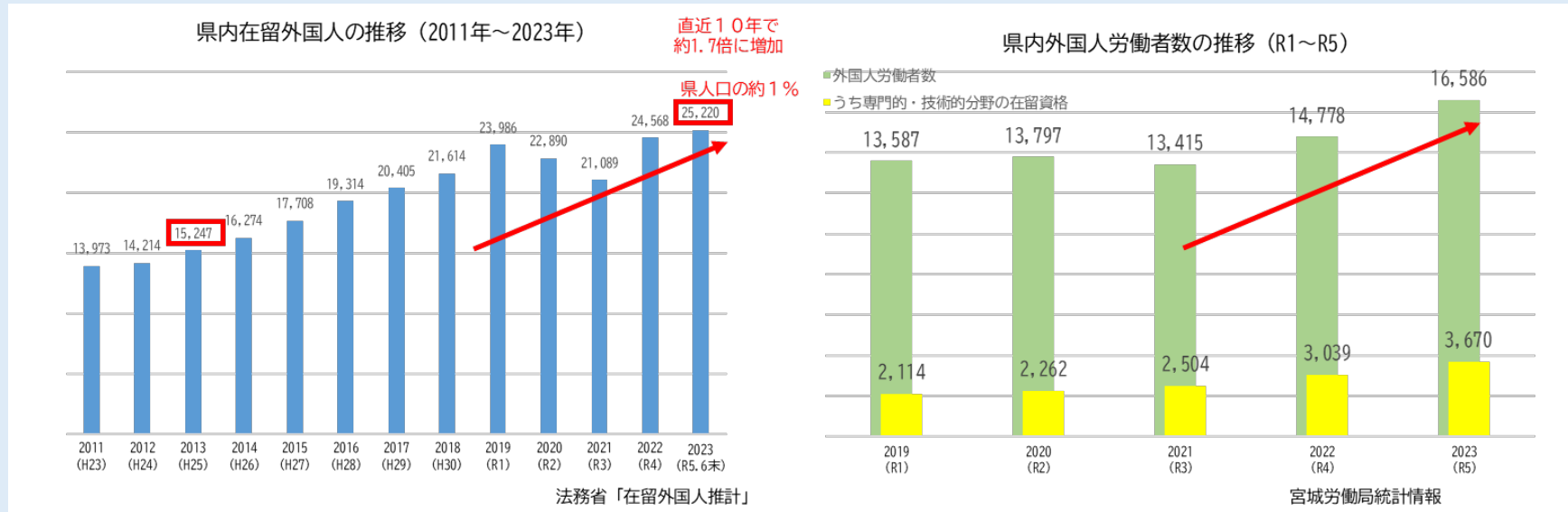
人材

2025年

2030年

Ⅲ. 今後の取組方針（②外国人材の受入環境整備）

- 在留外国人数は過去10年で約1.7倍に増加しており、外国人労働者数も増加傾向となっている。



- 半導体産業の誘致等、新たな産業集積を目指す上で、今後外国人材の活躍は社会活動の維持、地域活性化の観点からも重要であり、外国人材の定着を総合的に支援

① R7開校予定の公立日本語学校（大崎市）

大崎市が廃校を利用した公立日本語学校を令和7年4月に開校（全国初の公立の認定日本語教育機関）



（旧古川小学校）

② みやぎジョブフェアの開催

インドネシア人材の確保を目的としたジョブフェアを令和7年度に県内で開催予定



（R6年9月 みやぎジョブフェアinインドネシア）

③ 外国人材マッチング支援事業

県内企業における外国人材活用の検討から外国人材採用・育成・定着までワンストップで支援

宮城県委託「令和6年度外国人材マッチング支援事業」

Work in MIYAGI

宮城県が県内企業と外国人材のマッチングを全力でサポートします！

企業訪問ツアー
交流会
セミナー
インターンシップ
企業説明会
選考
採用
定着

まずはエントリーをお願いします！

HPにて登録中！

Work in MIYAGIで検索！

企業訪問したい企業はDMにてイベントや情報のご紹介をいたします

022-398-6970

ToYa Work.

宮城県

（愛称:Work in MIYGI）

IV. 職業能力開発校への外国人材受入れに関する提案

- 〈趣 旨〉 本県では、半導体生産の拠点化に向け、大規模な半導体企業の誘致に取り組んでおり、実現した場合には、当該企業だけでなく、関連企業においても人材が不足することが懸念されている。企業の人材不足の問題は深刻化しており、外国人材の受入環境整備により人材不足に対応する。
- 〈目指す姿〉 職業能力開発校で外国人材を受入れ、職業人として育成し、県内で人材が不足している産業に就職させる。
- 〈課 題〉 外国人が職業能力開発校に入校できる在留資格「研修」は、研修終了後に自国へ帰国しなければならない、国内就労が出来ない。

〈規制緩和の内容〉

○職業能力開発校での訓練終了後、就労が可能な在留資格である特定技能（又は技能実習）の取得を特例的に可能とする。

令和6年6月4日 国家戦略特区諮問会議（国家戦略特区として取り組む規制・制度改革事項等について）

【 半導体関連産業における外国人材の就労円滑化 】

在留資格「研修」によって入国し職業能力開発校で訓練する外国人が、修了後に在留資格「特定技能」等に変更して国内での就労を可能とすることについて、民間の教育訓練機関との関係性や在留資格の趣旨・目的等に留意しつつ、実現の可否も含めた在り方を検討し、2024年度中を目途に結論を得る。

- ・ 出入国管理及び難民認定法第7条第1項第2号の基準を定める省令の「法別表第1の4の表の研修の項の下欄に掲げる活動」の規定における、「国籍又は住所を有する国に帰国後本邦において修得した技能等を要する業務に従事することが予定されていること」の規制緩和を提案するもの。
- ・ 職業能力開発校での職業訓練によって習得した技術・知識を活かして県内に就職することにより、特に人手不足に悩む地域の半導体関連産業における就職支援につながる。
- ・ 必要に応じて、研修中の資格外活動や、訓練カリキュラムに合わせて在留期間を認める等の検討を希望。

V. 半導体分野における人材不足とニーズの状況

- ◆ 県内の半導体産業においては、**現状でも年間400名以上の人材が必要。**
- ◆ 今後半導体産業の拠点整備を進めることでさらなる**人材ニーズが発生する見込み。**

東北（宮城）の今後の半導体人材のニーズ

- ① 県内の主な半導体関連企業の人材必要数 **【現状の増加数で推計】** ⇒ 少なくとも **約4,600人/10年間（年間460人）**

県の調査により把握した県内の主な半導体関連企業（21社）における正社員の増加数を集計。「電子部品・デバイス・電子回路製造業」「半導体製造装置業」の県内事業者数は121社（経済構造実態調査）。

- ② 今後10年間の半導体人材の必要数 ⇒ 全国で新たに4万人の人材が必要。うち北海道・東北 **6,000人**

（参考：JEITA半導体部会主要企業8社の見込み）

北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	合計
6,000人	12,000人	6,000人	4,000人	3,000人	9,000人	40,000人

上記全国の動向を踏まえた今後の増加数推定 **【今後の動向を加味】** ⇒ **約1,600人/10年間（年間160人）**

北海道・東北各県の「電子部品・デバイス・電子回路製造業」「半導体製造装置業」の製造品出荷額等ベースでシェア（宮城県は約2.7%）から、按分※経済センサス・活動調査 製造業（従業者4人以上の事業所）

- ③ 更なる半導体関連産業の集積 **【大型企業の誘致に伴う必要数】** ⇒ **+α人（半導体工場誘致想定1,200人など）**

※1,200人はJSMC数値参考

今後10年の宮城県の半導体関連
企業の人材需要

①+②+③=

6,200人+α（年間620人）

← 研究開発技術者(海外)(東北大学理工学系)

← 研究開発技術者(県内誘致)(東北大学育成)

← 製造工程技術者等(社会人、高専、理系学部等)

← アシスタント技術者(社会人、高専、理系学部等)

高技専への外国人材の受入れ
※民間専修学校と競合しない
「金属加工科」「機械エンジニア
科」等をまずは検討

宮城県内における半導体人材供給の推計

- ① 宮城県内の工業高校～大学院の新卒輩出数のうち理工系人材 **【約5,000人】**

- ② うち、**宮城県内の半導体企業への就職者見込数【新卒輩出数】**

（大学院・大学等＝県内就職率34.5%、高校（工業系）＝県内就職率77.7%）

（理工系人材の半導体企業就職率：9%で試算※）※九州半導体人材育成等コンソーシアムWG資料より

⇒推計上、我が県では当面の需要に対応する人材供給力は不足しており、

更なる半導体関連産業の集積を目指す上では、新たな人材育成・確保の体制構築が不可欠である。

今後10年間で少なくとも4,000人、年間400人の人材が不足すると推計（新規学卒者による充足率が3分の1程度）

今後10年の宮城県内半導体
関連企業への新卒輩出数
約2,200人（年間220人）

VI. 職能校の状況と地元専修学校との競合に関する調整

職能校の状況

- ・ 県内大手半導体製造装置企業、サプライヤー企業が求める人材像の例（職能校への求人あり、就職（候補）で抽出）
半導体製造装置組立、切削加工、金属切削加工、高機能製樹脂部品加工 などの技能職

人材が不足する分野に対して、現に職業能力開発校が有する

➡ ①「機械系（工業製品の機械部品加工）」 ②「金属加工系（金属加工、溶接）」

等の訓練コースで**人材育成・供給が可能**

→ **現状では定員を充足していない**。（①②については、きめ細かな技術指導により就職率100%〔R5実績〕）

- ・ 職業能力開発校では、1年又は2年間（1400時間又は2800時間）の職業訓練により、「特定技能1号」の技能試験をクリアできる技能習得を目指す。（日本語能力については、職能校入校時点でN3レベル程度）

地元専修学校との調整状況

令和6年7月22日

宮城県産業人材対策課、総合政策課及び宮城県専修学校各種学校連合会（以下「宮城県専各連」）とで打合せを実施。職能校と専修学校との競合に関し、カリキュラム等の比較等によって競合確認を実施することについては了承を得た。

令和6年9月2日

宮城県専各連の同意を得て、**県が専修学校に直接調査・確認。**

当該調査に当たっては「半導体関連分野に関する競合確認」であることを踏まえ、調査対象を「県内で工業分野学科を有する専修学校」に限定して実施することとし、競合の恐れがある専修学校3校※¹（東北電子専門学校、東日本航空専門学校、仙台工科専門学校）に対して、半導体関連分野として迎え入れる職能校のカリキュラムとの競合があるかについて調査を実施。

※¹ 全国専修学校要覧掲載校

➡ **【調査結果】半導体関連分野※²の訓練に関し、調査対象3校から「競合なし」の回答あり。**

※² 半導体関連分野（調査対象学科）①機械エンジニア科、②金属加工科、③溶接科、④塗装施工科、⑤左官科、⑥設備工事科